



仙高の風

令和3年 1月27日発行 第9号

大学入学共通
テストに向け
て直前の説明
会で受験生を激
励しました。



冬季休業明け全校集会～令和3年がスタート



「校長講話」 始業にあたって～ニャロメという猫のこと 町田尚彦校長

仙高生のみなさん、あけましておめでとうございます。「すべての世界中の人々が健やかで幸せでありますように」と、誰もが祈った年の始めとなったことでしょう。「誰かが幸せでないと自分が幸せになれない」ことを、この1年のコロナ禍は教えています。◆急激な感染拡大に突然学校が休校になるようなことを、誰もが想定しておかなければならない事態になっています。どうぞ全生徒で、引き続き感染防止に全力で取り組むとともに、それぞれの仕事で力を尽くしている人たちに改めて感謝し、自分自身も誰かに感謝されている人であることに自信と誇りを持って、気高い理想を掲げた2021年の始まりにして参りましょう。◆不安定な時代には、いつパニックや暴走が起こってもおかしくないというザワザワした感じとは反対に、ナンセンスとかギャグ、パロディーなど、笑いの文化も育つものです。「やってらんない！」という憤りを、「怒り」の形ではなく、「いいじゃんか」という笑いの形に転換する。笑いとは、ピンチを前向きに捉え直す、実にポジティブな文化だと思うんです。◆今日は赤塚作品「もーれつア太郎」に登場する「ニャロメ」という猫を紹介します。大学生だけでなく、大人から子どもまで、ナンセンスキャラクターは人々を元気にしていたのだと思います。ニャロメは猫でありながら「人間の女の子と結婚したい」という願望を常に持ち続けています。そのためなら何でもします。それに付け込んで、八百屋のア太郎はじめ多くの人間は、ニャロメに「うまい話」を持ち掛け、それに踊らされて実行するニャロメは、結局人間の女の子に振られ、儲けも人間に掠め取られるという、踏んだり蹴つたりの話が毎回展開されます。「もう人間は信用ニャい」と誓いながらも、人間の女の子と結婚したい願いを棄てられないニャロメは、再びア太郎たち人間の口車に乗り、純粋な思いを実現すべく依頼事を実行し、結局人間の女の子に振られ、儲けも掠め取られるということを繰り返す、まさしく哀れな存在です。しかし、裏切られてもまた信じてしまうところや、夢はいつか叶うと本気で信じているところ、自分より弱い仲間であるカエルやケムシの友人が傷つくたびに「元気出せニャロメ！」と励ましを忘れないことなどは、ニャロメが多くの日本人の心を鷲掴みにした所以です。小学生だった私は、ニャロメがそんな時代感覚を背負っていることや、当時多くの日本人に愛されていた理由の分析など、考えることさえしませんでした。肌感覚というか、ニャロメが猫でありながらも人間以上に人間味に溢れていることや、騙されてもまた信じてしまう一途な思いの尊さなど、幼いながらも感じ取っていたのだらうと思います。◆この「肌感覚」というのが生きる上でとても大事なのだと思うのです。◆役立つとか役立たないという基準は、今現在の欲求を満たすかどうかなので、実に刹那的です。教養とは、損得ではなく複眼的なものの見方をするため、まったく違う着眼により考察する力。「文系だから理数は不要」のような考え方は、勉強を「受験で点数取るための手段」としか捉えず、学びと人の生活の関係に思いを巡らす隙もない。結果、学びの面白みに気づくこともありません。いろいろな切り口から学ぶことは、答えのない未来を切り拓くために必要なのだと思います。笑いは、深刻に悩み、考え方の違いによる人の争いに「シェー」と驚いてみせ、最後は「これでいいのだ」とすべてを肯定する奇跡の教養であると思います。(一部抜粋)



「教務部」より 池口良太教諭 全ての生徒がいずれ社会に出るわけですが、社会に出てから解かなければならない問題は、

答えのない問題ばかりです。解決するためには考えるしかありません。その材料となるのが学校で習った事項や培った能力ではないでしょうか。例えば国語で培った表現力や数学で培った理論的思考力、授業で得た知識などです。そしてその考えるための材料は多ければ多い方がより高度な答えを導けるわけです。そのために今、勉強を頑張ることが重要です。



「保健部」より 佐藤千秋教諭 新しい年になり国民一人一人、家庭内においても感染予防の徹底が必要になってきました。コロナという見えないウイルスに負けないためには、まず感染予防を徹底するしか今のところありません。そこで皆さんに更に慎重な行動をお願いいたします。来週3年生は大学入学共通テストがあります。3年生はそれに向けて、体調管理をしっかり整えて自分の力を発揮できるように頑張ってください。1・2年生は3年生を応援するためにも一人一人の感染予防対策をお願いいたします。最後に医療従事者の方々の負担を軽減させるためにも、私達一人一人が出来ることをしっかり行っていきましょう！



「生徒指導部」より 佐藤政宏教諭 私はかつて、母親を交通事故で失った悲しい経験を背負って生きています。だからみんなには真剣

に聞いて欲しい。今年の冬は特に寒く、校舎周辺の坂がアイスバーンになり、君たちが自転車で通過するときに、滑って事故を起こしかねない。あるいは重大な事故に巻き込まれないかという胸騒ぎです。真剣に心配しています。だから、余裕を持って登校しよう。無茶な運転は絶対にやめよう。今年の冬はレベルの違う寒さが今後も続くからです。

女子テニス、県新人で団体ベスト8



10/12から3日間の日程で行われた宮城県高等学校新人戦テニス競技において、仙高女子テニス部は団体でベスト8に入りました。

『Standard 9, 10月号』(河北新報)に、この夏の大会で準優勝に輝いた硬式野球部と、優秀選手に輝いた鎌田健太郎さん(3年)の活躍が紹介されました。



この夏の大会で準優勝に輝いた硬式野球部と、優秀選手に輝いた鎌田健太郎さん(3年)の活躍が紹介されました。



ラグビー部浅井勇暉さん(右)とバレー部女子(左)が特集されました。『Standard 1, 2月号』(河北新報)の「次なる舞台へ」

で、ラグビー部浅井勇暉さん(3年)が大学での抱負と日本代表への夢を語りました。また、県新人大会を目前にした女子バレーボール部が、「ゼロからの伸びしろは無限大」と紹介されました。



1学年フェニックスゼミ発表会開催 1/21,第1学年は「フェニックスゼミ発表会」を実施しました。

1年をかけて進めてきたゼミ活動をプレゼンテーション形式で発表するもので、今回は、16のゼミが事前に録画。その動画を各教室で鑑賞、互いの活動を評価し合いました。この日は、中村淳教頭をはじめ5名の先生方が審査員となり、各賞を決定しました。

最優秀賞



選ばれたのは山岸義和教諭のもとに集まった20名の生徒たちで、『世の中に存在するギャップこそ、新しいサービスを生むゼミ』でした。SDGsの理念に対する理解度や事前研修の深まり、プレゼンテーション力など総合的に高く評価されての受賞となりました。

◆第1学年Zoomを使って進路講話 教室内無線アクセスポイントが全ての普通教室に設置されました。



国のGIGAスクール構想を受け、仙台市では、教室内のネット環境を整備。本校にも設置されました。早速、1学年では「進路講演会」で使用しました。東京にいる講師の先生から全クラスに同時配信されたLIVE映像を使い、「6年後の自分は?」「社会人5年生の自分は?」など人生設計をしながら、将来の職業について考える大変有意義な時間となりました。

「仙台高校市民開放講座」を開催しました。

12/25・26・28の3日間、本校英語科の二階堂衛教諭が市民の皆様を対象とした開放講座を行いました。「英語の有名表現を語(そら)んじょう!」と題した講座には市内から6名の方が参加されました。アメリカ大統領の演説やマンデラ氏の名言を英語



で話せるようになるまで挑戦していただくなどして、英語を学ぶ楽しさや喜びを味わっていただく機会となりました。参加した皆様、ご参加いただきありがとうございました。

大学入学共通テストにいざ! 1/15, 共通テスト(昨年までのセンター試験)を前日に控えた3年生が、3学年団・進路指導部主催の説明会及び激励会に参加しました。

町田尚彦校長から「君たちは自己ベストを出せる。」と激励。杉内浩幸進路部長からは「本番でしか出せない力がある。心が乱れぬよう備えよ。健闘を祈る。」末永光洋3学年主任からは「今年受験会場に行っても応援することができない。神仏はあまり信じてないが、人気のない神社に行って祈ってきたい。」などと話されました。コツコツ頑張る仙高生!



「サクラ咲く」ように、気持ちを合わせ健闘を誓いました。

令和2年度みやぎ高校生フォーラム(教育委員会主催)に参加

「私たちの志と地域貢献」をテーマに自校の活動を動画で紹介し合い、自らが社会で果たすべき役割を考えるというもの。本校は、自分づくり教育を積極的に推進しています。ポスター発表動画製作:生徒会執行部1年生



〒981-8502 仙台市青葉区国見 6-52-1
Tel 022-271-4471 Fax022-271-1136
URL <http://www.sendai-c.ed.jp/~sendaihs/> 担当:主幹教諭 板橋俊文
『仙高の風』バックナンバーはホームページからもご覧いただけます。